



春爛漫、と言いたいところですが、今年  
は「花冷え」と呼ばれるぶり返し寒波が強  
くて凍えました。そんな4月のO2ファ  
ームでは田植えに向け本格的な準備中。報告  
することがたくさんあります。

まずはめでたい? ニュースから。O2フ  
ァームのメンバーが増えました! と言っ  
ても、4人目の誕生ではありません(笑)。

「有機農業の見習いがしたい」という熱意のある青年が、  
研修生として1年間お手伝いしてくれることになりました。  
田んぼの面積が増えてきて、家族だけでは手が回らな  
くなってきたO2ファームにとっても、就農はしたいけど  
いきなりじゃ不安、と思っている彼にとってもありがたい  
ご縁です。地道な水路の整備や田んぼの石拾いも熱心にや  
ってくれ、子供たちもすっかりなついて、O2ファームの  
一員として日々を過ごしています。



さてあと約3週間で田植えが始まります。田植えまでの約1か  
月は、逆算して綿密な計画のもとに作業を進めます。例えば...  
田植えの20日前には種をまく。その10日前には良い種を選別  
した後、種子に付く病気を殺すため、60のお湯に浸けて熱消  
毒。10分後すぐに流水で冷やし、きれいな水に浸けておきます。  
田植え機で植えやすいよう、密に種を蒔いて苗をつくるので、病  
気になるとすぐに他の苗にもうつってしまいます。「苗半作」と  
いうように、丈夫な苗を作ることでお米の出来が決まる、と言わ  
れています。もちろん農薬は使いませんが、できる限りの予防策  
はしておく、というわけです。種を水に浸けている間に、苗箱に  
床土を詰めたり、冬に牛の飼料を入れておいたビニールハウスの  
片付けをしたり。もちろん田んぼの準備も並行して進めます。水

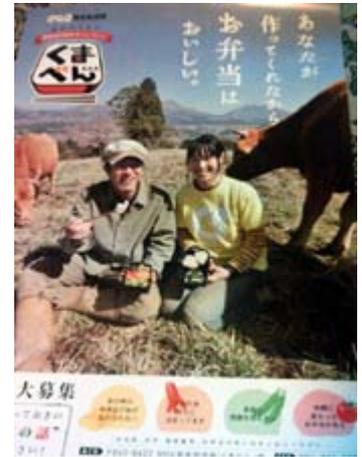
を貯めるためには水路の整備をしてから、代掻きを2回。土と水を混ぜて粘土状にすることで、水がしみ込みにくい状態を作ります。これが代掻き(しろかき)。畦も作ります。有機肥料は効果が出るのに時間がかかるので、余裕をもって「元肥(もとごえ)」(牛糞堆肥、菜種油粕、鶏糞)を撒き、土と混ぜて耕しておく、...等々。来月の通信までには田んぼが植わっていることを思うと、やることの多さに頭が混乱しそうです。そんなタイヘンなこの時期に、  
今年は2つも外せない用が重なってしまいました。農作業とは直接関係ありませんが、そのご報告もさせて下さい。



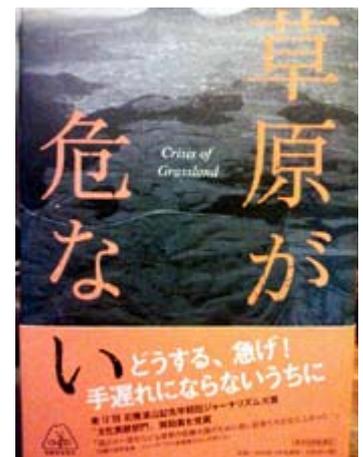


まずは「春のセンバツ甲子園」。耕太の母校・済々黌高校がなんと55年ぶりに出場！高校球児だった耕太は「半世紀に一度じゃ、死ぬまでにはもうないかも」と行くことを決断。野球を習っている友人の息子さんも連れて、一家で応援に行ってきました。春の甲子園球場は子連れにも快適。試合はめでたく勝利し、大いに盛り上がりました。

もう一つはエリのイタリア出張。あまり知名度はありませんが、「世界農業遺産」という制度があります。世界最大級のカルデラで千年以上も草原を維持しながら独特の農業と文化を育んできた阿蘇なら認定も夢ではない、ということで県が国連機関に申請したのが去年の暮れ。阿蘇がいかにか「世界農業遺産」にふさわしいか、ということ国連機関で発表するにあたり、英語で農業を語れる私エリに白羽の矢が立ったのです。移動を含めて5日間という強行スケジュールではありますが、田植えまでのこの時期は抜けられないけどどうしよう、と悩んでいたなら、なんと県庁職員さんが私の代わりに農作業をしに来てくれることに！というわけで、やるだけのことはやって来ようと思います。ちなみに右の写真は、NHK 熊本の新番組宣伝ポスター。県内あちこちに貼られているようです。この風景を今後も守っていくための意気込みをローマでもお話して来ようと思います。



草原や景観の話が続けます。阿蘇の春の風物詩と言えば、「野焼き」。千年以上続く阿蘇の草原は、茅葺き屋根の材料をとったり、農耕馬を放牧したりして利用されてきました。その草原を管理するため、春には共同作業で野焼きと呼ばれる火入れをしてきたのです。日本一の面積を誇るこの草原のおかげで阿蘇は国立公園に認定され、今では世界遺産の候補地にもなっています。ところがこの草原が減り続けているのです。野焼きは命の危険を伴う作業。去年は野焼きボランティアの焼死という痛ましい事故もありました。高齢化が進む中、このままでは草原を維持することも、共有の水路を管理することもさらに難しくなってきます。日本がユーラシア大陸とつながっていたことを示す貴重な植物も棲息する阿蘇の草原。森林よりも雨水を地下に貯める力があると言われている草原。美しい風景として訪れる人の心を癒し惹きつける草原。なんとかこの草原を守っていこうと、地元の熊本日日新聞社が2年間続けた「草原が危ない」という企画が、1冊の本として出版されました。昨年、私が記者さんとドイツを訪れたときの記事や、一昨年のお正月にNHKアナウンサーの武田真一さんらと対談したときの記事も載っています。もし関心がある方は、お問い合わせ下さい(1,400円)。



これから田植えが終わるまで、雨の日も休みなしですが、この秋においしいお米をお届けできるように、新しいメンバーも含めて一丸となって頑張ります。それでは、皆さま楽しいゴールデンウィークをお過ごしください。